

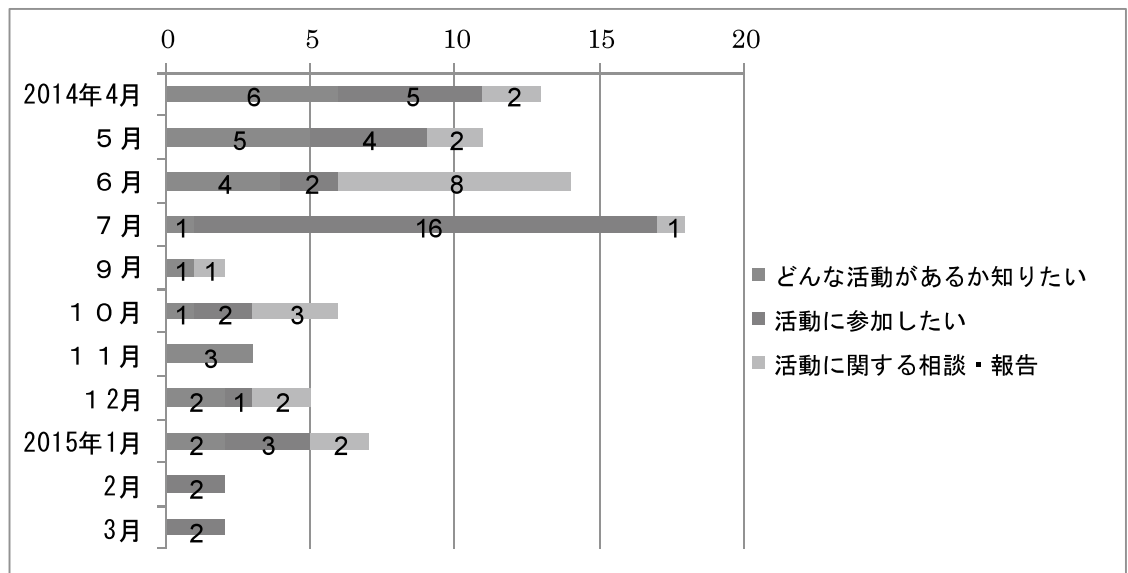
4. 学外のボランティア情報の紹介とその活動の支援に関する事業

(1) ボランティアコーディネート業務

エルピス館2階インターネットカフェに相談窓口を設け、平日12:10~16:30はボランティアを希望する学生の相談や、学生ボランティアを募集したい近隣諸団体のボランティア担当者から相談などを伺った。ボランティア活動への一歩が中々踏み出せない学生の後押しや、ボランティア活動への参加を希望する学生と活動先のマッチング、活動のステップアップのフォローなど、多岐にわたる相談に応じてきた。

i) ボランティア相談件数と相談内容

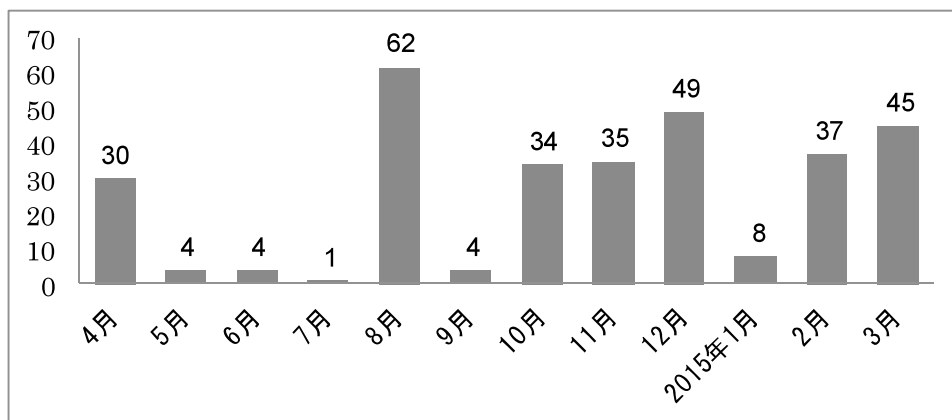
のべ相談件数 83件(団体からの相談除く)内訳



ii) 新規ボランティアマッチング件数と活動内容

・月別マッチング者数

のべマッチング件数 313件内訳



・マッチング先

月	マッチング先
4月	世界自閉症デー広報ボランティア、ふるさと上谷沼地域創造塾
5月	ふるさと上谷沼地域創造塾、平方地区小学校ミニバスケットボール大会
6月	ふるさと上谷沼地域創造塾、大宮ゆめの園、大宮アルディージャ
7月	社会福祉法人あらぐさ福祉会
8月	こどもiランドキャンプ、三貫清水の会、NPO 法人彩の子ネットワーク、手話ダンスアイリス、NPO 法人織の音アート・福祉協会「ひびき」、与野本町児童センター、冒険あそび場たねの会、特別養護老人ホームぱるばてお、浦和しびや苑、わこう・あそびの森
9月	彩の国ふれあいピックバレーボール大会、埼玉カンピオーネ精神障害者フットサル
10月	さいたまKI-TAまつり2014、コミ協フェスタin大谷2014、上尾ふれあい広場、ボラフェス2014
11月	ボラフェス2014、いきいきフェスティバル2014、上尾まつり、大谷ふれあい交流会、第27回2014上尾シティマラソン、大里小学校「こどもの街づくり」、上尾消費生活展、埼玉カンピオーネ精神障害者フットサル
12月	さいたま市地域資源発見ワークショップ、宮原にサンタがやってくる
2015年1月	上尾南中学校研究授業、埼玉カンピオーネ精神障害者フットサル、傾聴ボランティアゆうゆう会、NPO 法人彩の子ネットワーク
2月	いっぽいっぽ大槌・釜石、三陸ひとつなぎ自然学校、Gakuvo ながぐつプロジェクト、デイサービスあけぼの、ベルベッキオ
3月	ベルベッキオ、NPO 法人 Good !、子ども☆夢☆未来フェスティバル、第2回「自転車のまち」あげお”スマート・サイクル☆フェスタ」

(2) 「夏の“ちょっと”ボランティア体験プログラム」紹介キャンペーン

i) 企画概要

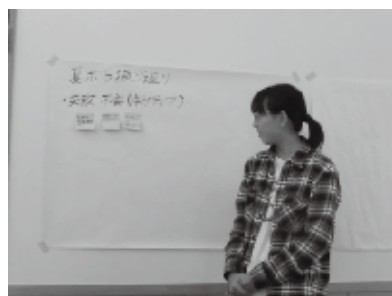
各市町村の社会福祉協議会や市民活動センター等では毎年夏の時期に様々なボランティア活動を体験することができる「夏のボランティア体験プログラム」を開催している。このプログラムの紹介を通じて、一人でも多くの学生にボランティアの機会をつくと同時に、プログラムの周知を通じて、「ボランティアは誰でも関わることのできる身近なもの」という雰囲気や大学内に育むことを目指した。

またボランティア紹介に終わらず、参加した学生がボランティア体験を通じて、自らに自信を持ち、今後のボランティア活動やキャリア形成につなげていくことをねらいとした。サポメンによる体験報告を含めたオリエンテーションと、ふりかえりの会を実施した。

ii) 実施内容とスケジュール

期間・日時	実施内容
7月～随時	各市町村の夏のボランティア体験プログラムの紹介
7月16日(水)	『夏の“ちょっと”ボランティアオリエンテーション』 活動上の注意事項・心がまえ サポメンによる夏ボラ体験報告 自己紹介&ワーク「ボランティア宣言！」 参加者：13名

7月下旬～9月	各プログラムへの参加
10月1日(水)	『夏の“ちょっと”ボランティア振り返りの会』 自分の活動を振り返り、不安だったことや楽しかったことを互いに共有した。 参加者：4名、事後報告者：6名



iii)参加人数と主な活動先

- ・活動につながった学生：16名
- ・のべ活動回数：40回
- ・学科・学年別活動者

学科	1年	2年	3年	4年	合計
欧米文化	1				1
日本文化	2				2
児童	4				4
こども心理	2	1			3
人間福祉	3	1	2		6
合計	12	2	2	0	16

・分野別活動人数

国際交流(国内)	児童分野	環境分野	祭り・イベント	合計(のべ人数)
	8	2		23(同一学生で他分野で活動した人数含む)
障がい児・者との交流・支援	不登校児との交流・支援	高齢者との交流・支援	スポーツ分野	
5		4	4	

iv)成果と課題

- ・今年も例年通り、児童分野を希望する学生が多く見られた。
- ・オリエンテーションの際、サポメン達の昨年度の夏ボラの体験談をシェアリングできたことで、初めて活動に参加する学生にとって、より具体的なイメージをもてたように感じた。
- ・振り返りの会を設けたが、日程的に人が集まらなかった。次年度は日程や開催時間など、再度検討したい。

(3)「ボラフェス! 2014」(旧:ボランティア祭)の実施

10月31日、11月1日に開催されたヴェリタス祭にて、近隣の福祉作業所の方をお招きして手作り商品の販売をしたり、ボランティア募集をしていただいたり、メンバーさんとレクリエーションに参加するなどして、交流を図った。主に卒業生が就職している作業所を中心にお声がけしたため、当日は卒業生が販売者としてヴェリタス祭に参加してくれる流れを作ることができた。また、

卒業生と先生、学生との交流の場としてもよい機会となった。

加えて、昨年同様に厚生労働省が実施している「児童虐待防止キャンペーン～オレンジリボン運動～」に賛同し、啓発活動を実施した。さらに「こどもあそびコーナー」と題し、割りばし鉄砲などの昔遊びを子ども達と楽しむブースを設置したところ、来場者に大変好評であった。

来場者数：10月31日（金）約200名

11月 1日（土）約550名

■ボラフェス！2014 実行委員・・・ 6名

■当日ボランティアスタッフ・・・ 7名 計13名



実行委員（左）



物販コーナー（中央）



こどもあそびコーナー（右）

i) 主な活動スケジュール

期間・日にち	活動内容
6月19日	準備会「代表と昨年度までの動きの確認、アイデア出し等」
6月24日	第1回実行委員会「自己紹介・昨年度までの動きの確認、アイデア出し、サブタイトル検討、実行委員のメンバー募集について」
7月 8日	第2回実行委員会「サブタイトル決定、自主企画の検討、チラシ案検討」
9月 2日	各団体への参加依頼文書配信
9月 3日	第3回実行委員会「チラシ作成、あそびルール設定」
10月9日	各団体へ参加確認フォーム配信
10月23日	各団体への駐車場利用に関する詳細を配信
10月28日～30日	直前準備
10月31日、11月1日	ボラフェス2014 本番
11月11日	各団体へお礼状の配信

ii) 「ボラフェス！2014」参加学生の声（一部抜粋）

- ・代表というめったにできない役をして、リーダー的な事をするのは初めてですごく困惑しました。駐車場やらパンフレットの紙を提出したり、個人面談をしたりと、前回のボラフェスは当日ボランティアとして出たので、裏ではこんなに大変なのかと驚きました。自分は皆を引っ張れる性格ではないので、本番まで、自分が本当に代表でいいのかと考えたり悩んだりしたのですが、「みんなも楽しみながら頑張る」というのを目標に、当日は不安も沢山ありましたが、とてもよい思い出ができ、皆さんのおかげで楽しくできた事に感謝しています！
- ・凄くたのしかったです。やっぱり一つのことをみんなでやっていくのって楽しいなあと思いました。

iii) 出展団体リスト

出展日	団体名	団体概要
10月31日	あらぐさ福祉会 労働と教育の場「雑草」	障がい者支援
10月31日	あとりえふぁんとむ	障がい者支援
10月31日	社会福祉法人いーはとーぶ	障がい者支援
11月1日	みやはら福祉会 ひびき	障がい者支援
11月1日	NPO 法人彩の子ネットワーク	子育て支援
10月31日 11月1日	共同作業所 ホサナショップ	障がい者支援
10月31日	第二いものこ作業所	障がい者支援
11月1日	ワークすみぎわ	障がい者支援

iv) 出展団体からの感想(一部抜粋)

- ・今回はこのような機会を与えてくださり、ありがとうございました。たくさんの方々が目をとめてくださり、購入してくださり、感謝でした。先生方・学生とも交流でき、とてもよい販売の時となりました。本当にありがとうございました。また機会がありましたらよろしくお願ひ致します。
- ・ボラフェスにお招きいただき、誠にありがとうございました。メンバーも大学の文化祭が楽しかったそうで、また行きたいと言っています。
- ・学生の皆様一人一人がとても親切にしてくれてうれしかったと利用者さんも話していました。
- ・ボランティアさんと一緒に祭りに参加したり、ご飯を買って食べたり、販売ができてとても楽しめていました。
- ・販売を手伝ってくれるボランティアさんがいるのは、交流もできて良いなと思います。

v) 成果と課題

- ・食品に関する商品はすべて完売することができ、施設側からも大変喜ばれた。
- ・展示のみの団体については、人の流れを考慮してブースの配置を検討したい。
- ・商品の販売だけでなく、ヴェリタス祭のステージでのレクリエーションにメンバーさんと学生とで参加することができ、学祭を楽しみつつ、交流を図ることができた。
- ・終了後、メンバーさんが涙ながらに「楽しかった！来年も来たい！！」と話してくれ、学生と感動を分かち合っていた様子が印象的であった。
- ・オレンジリボン運動は実行委員の熱い声掛けで、当日は多くの来場者がリフレットを受け取り、リボンを付けてくださった。
- ・できることなら、次年度は学生たちの活動紹介も実施したい。

(4) 地域イベントへの参加

2013年度に引き続き、上尾市やさいたま市で行われたイベントに積極的に参加した。

i) 地域イベントへの参加実績と参加内容

日にち	主催者/イベント名	参加内容	参加人数
10月12日	さいたま北商工協同組合主催/さいたまK1-TAまつり2014	K1-TAまつり福祉体験ブースの実施	学生8名(学友会等から参加の学生は除く) コーディネーター1名

10月19日	上尾市大谷支所／コミ協フェスタ in 大谷 2014	復興支援ボランティアチーム【SAVE】による活動報告	学生2名 職員1名
	上尾ふれあい広場実行委員会／上尾ふれあい広場	たこ焼きブースとこどもあそびコーナーの実施	学生11名 コーディネーター2名
2015年 2月25日(水) ～3月3日(火)	さいたま市市民活動サポートセンター主催／被災地支援展示&サロン「あの日から4年。私たちは忘れない。」 ー支援・交流を伝える、広げるー	復興支援活動の展示、サロンでの活動発表 (3月1日(日))	学生6名 コーディネーター1名
3月28日	第2回「自転車のまち“あげお”スマート・サイクル☆フェスタ」	実行委員会への参加、ダンス部・アカベラ部のステージ発表、スタンプラリー対応	学生31名 職員1名

(5)学外ボランティア団体からの相談対応

立ち上げ3年目に入り、直接来校してボランティア募集の説明をしてくださる団体が増加した。また、様々な研修へ参加することで知名度があがり、上尾市・さいたま市以外の社会福祉協議会からの情報提供や県外の団体からの相談なども増えた。昨年度の外部団体の来場者数は23件だったが、今年は来訪だけでも33件だった。その他、メールや電話、FAXでの依頼は変わらず多かったが、なるべく顔の見える関係を築くことを目標に、今後も対外的な対応を心がけていきたい。

i)来訪団体数

月	来訪団体数	月	来訪団体数
2014年4月	5	10月	1
5月	2	11月	1
6月	5	12月	1
7月	3	2015年1月	4
8月	1	2月	3
9月	7	3月	2
合計		35	

(6)コーディネーターのスーパーバイズ

昨年度のセンター発足時から、コーディネーターの日々のボランティアコーディネーションについて、毎週1回(15分～60分程度)スーパービジョンを実施している。困難な調整事例や課題のある学生への対応方法など、コーディネーターが一人で抱え込まない環境づくりができた。また、複数で課題を検討することで、様々なアイデアが生まれ、よりよい支援や活動につなげることができた。

■スーパーバイズ：毎週1回15分～60分